

高校生 I C T 2022 Conference

in サミット

～テーマ～

デジタル社会における学び方と学びの場

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

開催報告書

2022年11月3日(祝)13:00-17:00

【会場】：情報セキュリティ大学院大学東京オフィス

主催

高校生 I C Tカンファレンス実行委員会

(構成団体)

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

共催

内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省

2022年11月17日

目 次

1. 開催概要.....	2
2. 高校生 ICT Conference 2022 開催状況.....	4
3. 高校生 ICT Conference 2022in サミット 開催概要.....	4
4. 主担当.....	9
5. 高校生 ICT Conference 最終報告会.....	9
6. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応.....	9

1. 開催概要

名称：	高校生 ICT Conference 2022 テーマ： デジタル社会における学び方と学びの場 ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」
主催：	高校生 ICTカンファレンス実行委員会（構成団体） ● 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 ● 大阪私学教育情報化研究会 ● 一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会
共催：	内閣府、警察庁、消費者庁、総務省、文部科学省、経済産業省
後援：	一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、全国高等学校情報教育研究会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、一般財団法人マルチメディア振興センター、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構
協賛：	グーグル合同会社、株式会社ラック、日本マイクロソフト株式会社、株式会社メディア開発総研、株式会社ディー・エヌ・エー、Bytedance 株式会社、Twitter Japan 株式会社、グリー株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社、エースチャイルド株式会社、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、株式会社サイバーフェリックス
協力：	株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、デジタルアーツ株式会社、一般社団法人インターネットコンテンツ審査監視機構、ストップイットジャパン株式会社、学校法人岩崎学園、情報セキュリティ大学院大学
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加、その後順次規模を拡大し、2020 年度には、全国 15 拠点にて開催し、計 86 校 360 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>【本年開催テーマのコンセプト】</p> <p>2019 年 12 月に感染が始まった新型コロナにより、それ以前の日常は激変し、人と人が直接接する機会をなるべく減らす新しいコミュニケーションの時代に入っています。学校においては同年代が集まり語り合い、切磋琢磨するこれまでの姿は無</p>

	<p>くなり、分散登校やオンライン授業の導入、マスクの常時着用や部活動の制限による社会的距離の確保を前提とする学校生活に変わりました。中でも、高校生に大きな影響を及ぼしているのがオンライン授業の広範囲な導入です。</p> <p>コロナの完全終結は未だですが、ワクチン接種や治療薬の開発が進み、少しずつ新たな生活スタイルの模索が始まっています。これから始まる新しい生活スタイルはどうか、新型コロナにより待たなしで始まった現在のデジタル社会はどうか、オンラインをテーマに問題点や課題を洗い出し、新たなデジタル社会への希望とこれまでとは違うライフスタイルへの期待を明らかにする。</p> <p>※平成 21 年 4 月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成 23 年度の小学校を皮切りに、平成 24 年は中学校、平成 25 年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しい ICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全に ICT を利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>(1) 挨拶 (2) 講演 (3) アイスブレイク (4) 熟議 (5) グループ発表 (6) 講評 (7) サミット参加者発表</p> <p>【東京サミット】</p> <p>(1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表 (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】</p> <p>(1) 各府省庁への提言発表（プレゼン） (2) 質疑応答・意見交換</p>
各開催地 募集人員等：	<p>募集参加生徒 30 名（各開催地により変動あり） 募集見学者各回 30 名（各開催地により変動あり）</p>
参加参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>
高校生 ICT Conference 実行委員会：	<p>【委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米田謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長） <p>【コアメンバー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石田幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会理事・消費者団体訴訟室長） ・ 植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事） ・ 小城 英子（聖心女子大学） ・ 他、関係者団体、事業者等

	【事務局】 一般社団法人安心ネットづくり促進協議会 〒104-0041 東京都中央区新富二丁目4番5号 ニュー新富ビル4階 TEL: 03-6280-4901
--	---

2. 高校生 ICT Conference 2022 開催状況

開催地	開催日時	会場
北海道	10月2日	オンライン
茨城	10月15日	茨城県立石岡第一高等学校
東京	9月19日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
新潟	8月18日	オンライン
石川	10月2日	金沢勤労者プラザ
長野	10月15日	オンライン
静岡	9月11日	専門学校 静岡電子情報カレッジ
大阪	9月18日	オンライン
奈良	10月9日	帝塚山大学
高知	8月16日	オンライン
福岡	9月23日	福岡県中小企業振興センター
長崎	8月20日	オンライン
大分	9月23日	ソフィアホール
全国オンライン	10月10日	オンライン
サミット	11月3日	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
最終報告会	12月15日	

3. 高校生 ICT Conference 2022in サミット 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 69 名の参加者を得て、“デジタル社会における学び方と学びの場 オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」をテーマに高校生が3グループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p>司会進行・主旨説明 実行委員長 米田謙三 様</p> <p>高校生 ICT Conference の概要及び大まかな流れ、本日のポイントや主旨などを説明しました。地域開催はリアルとオンラインがほぼ半々となり、サミットはリアル開催で実施できたが、感染対策から会場参加者が限定となり、多くの方にオンライン参加をお願いしたことについてお詫びがあり、改めて感謝の言葉がありました。</p> <p>開会の挨拶</p> <p>総務省 情報流通行政局 情報流通振興課 課長 田邊 光男 様</p> <p>オンラインの発達により、コロナ禍で行動が制限される中でも、物資の調達や授業の受講など、オンラインを活用することにより日常生活を送ることができる。さらには、オンラインを使いこなすことで日常生活のレベルを上げることも可能となった。一方で、オンライン上の情報には様々な情報が流れている。その様々な情報の本質を見極めるための「批判的精神」も必要である。今日の議論を通じ、社会で起きていることを自分事として捉え、社会に対して対峙する力を培って欲しい。</p>
----	--

内閣府 政策統括官付 青少年環境整備担当 参事官 鈴木 達也 様

内閣府は、いわば総理大臣直轄の機関として、他の省庁で出来ないところを担当し、カバーしている。私が警察庁にいた 2003 年にいわゆる出会い系サイト規制法が制定され、内閣府でもネットが青少年にとって危ないものにならないようにという観点で取り組んできた。一方、ネットは正しく活用すれば豊かな世界が広がっていく。みなさんは、デジタルネイティブ世代で違和感なくネットを活用している。今日は、ネットの良い面を活かすという方向で、活発な議論をして欲しい。

**文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
安全教育推進室 室長 西條 英吾 様**

毎年、高校生 ICT カンファレンスで、生徒の皆さんが集まり熟議をし、提言をいただくことは大変有意義なものだと捉えている。今年のテーマにあるとおり、社会は新しいコミュニケーションの世界に入ってきており、これを踏まえ今年から高校においては情報 I をすべての生徒が学ぶこととなった。今日は、高校生として、進歩する ICT を安心安全に、また、主体的に活用する社会とするための議論となることを期待している。

経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 企画官 橘 均憲 様

経済産業省の業務の一つに、AI に関してイノベーション促進と倫理的課題の均衡点を探ることがある。AI システムは使い方によっては人間社会を良くすることができる力を持っており、それを考えるには柔軟な思考が必要となる。一方、例えば学習させるデータに偏りがあると倫理的に問題があるような極端な判断をすることも。このようにメリット・デメリットの両面を理解し、さまざまな観点から検討し分析していく必要がある。今回のテーマの『出来ることとすべきこと』についても、同様に柔軟な思考とさまざまな観点からの分析によって素晴らしいアイデアを出して欲しい。

警察庁生活安全局人身安全・少年課 課長補佐 須藤 浩司 様

警察の役割は、犯罪者の検挙と犯罪の未然防止を両輪としている。ネットについては利便性と危険性の両面があり、後者の面ではフェイクが平然と入り込み、利用者は犯罪に巻き込まれる恐れがある。警察庁では予防するための広報啓発やサプライヤーである事業者と連携した対策を講じている。今日は、ネットの課題について様々な課題を多面的に議論し、特に危険性を自分事として捉え、適正な活用方法について活かした知識を身に付けるプロセスとなるよう、この機会を大切にしたい。

第一部 地域開催報告

各開催地域代表生徒が自己紹介、および地域の取り組みの簡単な紹介をしました。
(各 3 分)

第二部：熟議 デジタル社会における学び方と学びの場

ーオンライン環境で「出来ること」「すべきこと」

最初はファシリテーターの進行のもと、高校生熟議を開始しました。まずは「学校とは何か」「オンラインのメリットとデメリット」次に「理想のオンライン」「高校生が期待するコミュニケーションの未来」ということを中心に Google スライドを活用しながら意見を整理分類しまとめて行きました。具体的な使い方については、テーマにしぼった班や少し大きなテーマで取り組んだ班などいろいろとありました。熟議の中で分からない事は、企業の方や先生方にも随時サポーターとして入っていただき、すばやく答えてくださいました。今回、ファシリテーターは OBOG の大学生が中心となってくれました。事前にオンラインでのフォームやまとめ方を打ち合わせして、滞りなくまとめることができました。(ファシリテーター研修を今年は隔週土曜日 3 か月間にわたって実施しました。)

★今回のポイント

1. 学校とは何か
2. オンラインのメリットとデメリット
3. 理想のオンライン
4. 高校生が期待するコミュニケーションの未来
(詳細は別紙「熟議録」をご参照ください)

第三部：グループ発表

各グループともプレゼンテーションソフト (Google スライド) を活用して 4 分の発表を行いました。(詳細は別紙「グループ発表資料」をご参照ください)

★参考：講評で米田実行委員長がまとめた各班のポイントから

【1班】 学校用ポータルアプリの制作

- オンラインツール多くが複雑
- ネット環境が不十分
オンライン授業を受ける事が出来ない。

○提言

オンライン環境の整備&向上

メタバース・VR の活用 (※環境と金銭)

ポータルアプリの開発 (具体的に提示)

【2班】 ICT の技術の差をなくすための WS

ーインターネット問題を各々の方法で解決するー

ICT 技術の差 インターネットリテラシー 興味分野の探求

協働的な学び オープンな環境

○提言

培った能力でインターネット問題解決に取り組める WS 開催 (趣味ベース)

○お願い

	<p>ICT能力の高い人たちを集めたい 例 ITパスポート取得者 各学校でのアンケートフォームを利用する環境整備 学校での時間の確保</p> <p>【3班】 高校生が活躍する学びの場と世界共通のコミュニケーションアプリ ・そもそも学校とは 生きるため⇒知識等 コミュニケーション⇒社会性 自己実現</p> <p>○提言 高校生が作成する情報科目のマニュアル タブレットの貸出無料化 経済的支援 平等な学習 生徒同士の教えあい ※代表者が年に四回、オンラインで話し合いマニュアル</p> <p>○作成 世界共通のコミュニケーションアプリ 世界との密接なコミュニケーション 英語力向上 留学生や外国人労働者などの母校 その県の姉妹高校ともつながる</p> <p>講評：大阪私学教育情報化研究会 副会長 米田謙三 様 今回初の大学生中心のファシリテーターのもと本当にいろいろな意見がここまで出てきて大変良かった。来年はさらに参加校も増える予定ですのでさらに盛り上げて欲しい。また 今回話し合った事を、学校に戻っても話しあって欲しい。今日参加の皆さんの次年度以降の協力を期待していると講評がありました。</p> <p>その後、参加生徒の互選により、12月15日に開催される最終報告会の代表校として以下3校が選出され、発表されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北越高等学校 ・長野県松本工業高等学校 ・関西学院千里国際高等部 <p>その後、全体写真を撮影して終了しました。改めて リアル開催の良さを感じました。</p>
参加校：	<p>北海道石狩南高等学校 茨城県立古河第二高等学校 江戸川学園取手高等学校 北越高等学校 小松大谷高等学校 長野県松本工業高等学校 静岡県立掛川工業高等学校 関西学院千里国際高等部 奈良県立香芝高等学校 高知県立佐川高等学校</p>

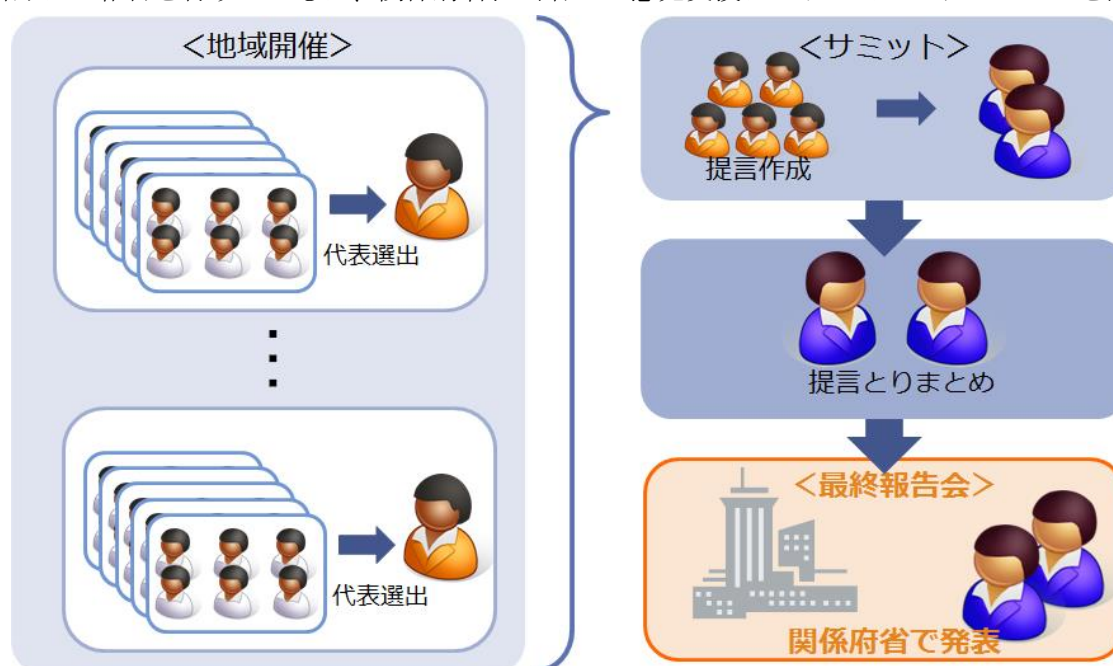
	福岡県立糸島高等学校 佐世保工業高等専門学校 大分県立大分商業高等学校 福井県立敦賀高等学校 (順不同)
日 時 :	2022 年 11 月 3 日 (祝) 13 : 00 - 17 : 00
場 所 :	情報セキュリティ大学院大学東京オフィス
参加人数 :	熟議参加生徒 14 人 見学者・関係者 55 人 (教員・教育関係者・その他) 合計 : 69 人
熟議グループ :	熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略) 【グループ名 : 1】 5 名 北海道石狩南高等学校 江戸川学園取手高等学校 長野県松本工業高等学校 静岡県立掛川工業高等学校 福岡県立糸島高等学校 [ファシリテーター] OB 金子 真志 国際基督教大学 岡 咲良 【グループ名 : 2】 5 名 茨城県立古河第二高等学校 小松大谷高等学校 高知県立佐川高等学校 佐世保工業高等専門学校 関西学院千里国際高等部 [ファシリテーター] 関西学院大学 橋田 喜乃 上智大学 矢野 莉央 【グループ名 : 3】 4 名 北越高等学校 奈良県立香芝高等学校 大分県立大分商業高等学校 福井県立敦賀高等学校 [ファシリテーター] 関西学院大学 杉本 花 上智大学 大森 星空

4. 主担当

一般社団法人安心ネットづくり促進協議会	事務局
一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会 学校法人岩崎学園 情報セキュリティ大学院大学 総務省関東総合通信局	会場、什器備品手配、庶務

5. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2022 サミットで検討された提言を、選出された代表者が報告用にとりまとめ、関係府省庁にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを踏る。



6. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表資料保存（又は模造紙など発表紙面の撮影）
- 2) Conference 終了後、発表内容、講評と併せて高校生 ICT Conference のサイトにアップデート
- 3) 高校生 ICT Conference 2022 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2022 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 5) 最終報告会での発表

以上